

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	姫路情報システム専門学校
設置者名	学校法人 姫路情報学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門 情報システム科	SE プログラマーコース	夜・通信	1812 単位時間	160 単位時間	
	IT スペシャリストコース	夜・通信	1732 単位時間	160 単位時間	
	CG クリエーターコース	夜・通信	1851 単位時間	160 単位時間	
	Web プロフェSSIONALコース	夜・通信	1778 単位時間	160 単位時間	
工業専門 情報経理科	情報経理科	夜・通信	1785 単位時間	160 単位時間	
	医療ビジネスコース	夜・通信	1825 単位時間	160 単位時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Web サイト: https://www.himejo.ac.jp
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	姫路情報システム専門学校
設置者名	学校法人 姫路情報学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.himejo.ac.jp/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	R5.12.23～ R8.12.22	教育面でのチェック機能
非常勤	株式会社役員	R5.12.23～ R8.12.22	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	姫路情報システム専門学校
設置者名	学校法人 姫路情報学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標設定：授業の目標を明確にし、学習者が達成すべき知識や技能を定める 2. 学習内容の選定：授業の目標を達成するために必要な内容を選定 3. 授業構成の決定：授業の流れと各活動の順序を計画 4. 教材の準備：授業に必要な教材やリソースを準備 5. 評価方法の設定：学習者の理解度を評価する方法を決定 6. 授業計画書の記述：全体の計画を文書としてまとめ、授業運営のガイドラインとする 7. 作成・公表時期： <ul style="list-style-type: none"> 作成時期:12月～1月に次年度向け授業計画を作成 公表時期:3月末に次年度向け授業計画を公表 	
授業計画書の公表方法	Webサイト: https://www.himejo.ac.jp
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価基準の明確化：学修成果を明確に定義し、それに基づく評価基準を設定 2. 多様な評価方法の採用：評価には、筆記試験、口頭試問、レポート、プロジェクト、プレゼンテーションなど多様な方法を採用 3. 形成的評価：学期中に行われる継続的な評価で、フィードバックを通じて学習の進捗を確認し、学習プロセスの改善を促す 4. 総括的評価：学期末に行われる評価で、学習成果の最終的な達成度を測定 5. ルーブリックの活用：評価の透明性と公平性を確保するために、ルーブリックを使用 6. 学生の自己評価と相互評価：学生自身が自己の学修成果を評価する自己評価や、他の学生による相互評価を取り入れる 	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>1. 総合点の計算 300点 前期試験+後期試験 200点+出席 60点+平常 40点(+検定 100点) ※出席点は $60 \times (0.2 - \text{欠席率}) / 0.2$ ※平常点は授業態度や学生の状況等、科目担当の基準に従って入力 ※検定取得を目標にしている科目のみ検定+100点を考慮(300点以上切り捨て)</p> <p>2. 評価基準点計算 A基準 対象科目の総合点平均 + aFact(0.52)×標本標準偏差 B基準 対象科目の総合点平均 + bFact(-0.84)×標本標準偏差 C基準 70 D基準 70未満 ※標本標準偏差の対象は総合点120点以上のデータ</p> <p>3. 各基準と各学生の科目総合点を基準にA～Dランク付けを行う</p> <p>4. 科目担当が評価の妥当性を確認し必要であればA基準、B基準を調整、再評価する (aFact と bFact の値に関して:A～C評定の割合の設定値)</p> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:12.5%;">A (%)</td> <td style="width:12.5%;">B (%)</td> <td style="width:12.5%;">C (%)</td> <td style="width:12.5%;">D (%)</td> <td style="width:12.5%;">:</td> <td style="width:12.5%;">aFact</td> <td style="width:12.5%;">bFact</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>50</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td>0.52</td> <td>-0.84</td> </tr> </table>		A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	:	aFact	bFact	30	50	20			0.52	-0.84
A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	:	aFact	bFact									
30	50	20			0.52	-0.84									
客観的な指標の算出方法の公表方法	Webサイト: https://www.himejo.ac.jp														
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>2年間在籍し、学校の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修した学生に対して卒業認定会議において卒業を認定する。</p> <p>卒業認定会議(2月末に実施)にて審議し卒業を認定する 出席者:校長を含む教職員全員 卒業認定基準: 成績:全科目がC評価以上 出席率:卒業年次の出席率90%以上 納入金:授業料、その他の全ての納入金を完納</p>															
卒業の認定に関する方針の公表方法	Webサイト: https://www.himejo.ac.jp														

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	姫路情報システム専門学校
設置者名	学校法人 姫路情報学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.himejo.ac.jp/
収支計算書又は損益計算書	https://www.himejo.ac.jp/
財産目録	https://www.himejo.ac.jp/
事業報告書	https://www.himejo.ac.jp/
監事による監査報告（書）	https://www.himejo.ac.jp/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科 SEプログラマーコース	○			
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年		1812 単位時間	957 単位時間	単位時間 /単位	855 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
生徒総定 員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150人		104人	人	3人	4人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）ITエンジニアとして必要な情報知識とプログラミング技術を学ぶ。1年次は情報に関する知識習得とプログラミング基礎、2年次は様々な言語の学習とチーム開発の手法を学ぶ。
成績評価の基準・方法
（概要）科目毎に、その終了時に1回の評価としてA・B・C・Dの4段階とする検定取得状況・平素の授業態度・確認テスト・出席率・課題提出状況・期末試験等（年2回）の結果によって総合的に行う
卒業・進級の認定基準
（概要）本学の教育方針であるスペシャリストの育成・豊かな人間形成を踏まえて、学生が各学科の教育課程を修め所定単位を修得したことを基準に進級・卒業認定会議にて審議し認定する
学修支援等

(概要) 検定対策の授業および技能や資質の向上を図るための実践スキルを身に付ける授業を行う

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
48人 (100%)	0人 (%)	43人 (89.5%)	5人 (10.5%)
(主な就職、業界等) システムエンジニア、プログラマー、カスタマエンジニア、オペレータ、等			
(就職指導内容) 就職課との連携を下に求人紹介、履歴書添削指導、面接指導、企業によるマナー講座（化粧講座、スーツ講座）、企業によるセミナー開催（基本の就活マナー）等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者、情報処理技術者能力認定試験3級、Microsoft Office Specialist Excel、ジョブパス3級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	5人	9.5%
(中途退学の主な理由) 精神疾患、体調不良によるもの(入学以前から通院のケースが主となる)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談、家族への連絡及び状況報告、学習面の個別対応		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
工業	工業専門課程	情報システム科 ITスペシャリストコース	○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	1732 単位時間	672 単位時間	単位時間 /単位	1060 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
生徒総定 員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
50人	45人	0人	5人	5人	10人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

(概要) 複数のアプリケーションを自在に操り、コンピュータの幅広い知識とスキルを習得する。1年次は情報に関する知識習得とプログラミング基礎、簿記、CAD、2年次はプログラミングやWebデザイン、データベースを学ぶ。
成績評価の基準・方法
(概要) 科目毎に、その終了時に1回の評価としてA・B・C・Dの4段階とする検定取得状況・平素の授業態度・確認テスト・出席率・課題提出状況・期末試験等(年2回)の結果によって総合的に行う
卒業・進級の認定基準
(概要) 本学の教育方針であるスペシャリストの育成・豊かな人間形成を踏まえて、学生が各学科の教育課程を修め所定単位を修得したことを基準に進級・卒業認定会議にて審議し認定する
学修支援等
(概要) 検定対策の授業および技能や資質の向上を図るための実践スキルを身に付ける授業を行う

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23人 (100%)	0人 (%)	23人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) システムエンジニア、プログラマー、システム運用、オペレータ等			
(就職指導内容) 就職課との連携を下に求人紹介、履歴書添削指導、面接指導、企業によるマナー講座(化粧講座、スーツ講座)、企業によるセミナー開催(基本の就活マナー)等			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者、情報処理技術者能力認定試験3級、Microsoft Office Specialist Excel、ジョブパス3級、日商簿記3級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	2人	8%
(中途退学の主な理由) 精神疾患、体調不良によるもの(入学以前から通院のケースが主となる)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談、家族への連絡及び状況報告、学習面の個別対応		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科 CG クリエーターコース	○			
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1851 単位時間	334 単位時間 /単位	単位時間 /単位	1517 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定 員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		58人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）数多くのグラフィックソフトを使用し、CAD系での地元就職やオンラインを利用した在宅勤務などを目指す。マシンを使用した実習をメインにしつつ、ビジネスマナーや就職対策、オフィスソフトの習得も行う。
成績評価の基準・方法
（概要）科目毎に、その終了時に1回の評価としてA・B・C・Dの4段階とする検定取得状況・平素の授業態度・確認テスト・出席率・課題提出状況・期末試験等（年2回）の結果によって総合的に行う。
卒業・進級の認定基準
（概要）本学の教育方針であるスペシャリストの育成・豊かな人間形成を踏まえて、学生が各学科の教育課程を修め所定単位を修得したことを基準に進級・卒業認定会議にて審議し認定する
学修支援等
（概要）平日水曜日以外の授業後に1時間のサポート時間、水曜日午後3時間のサポート時間を設けて学習支援を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (92.6%)	1人 (3.7%)	19人 (70.4%)	5人 (18.5%)
（主な就職、業界等）CADオペレーター、グラフィックデザイナー、イラストレーター 設計業界、広告業界			
（就職指導内容）就職作品制作指導、履歴書添削指導、面接対策指導、 筆記試験対策指導			
（主な学修成果（資格・検定等））デザインコンテスト受賞、CAD利用技術者試験基礎 ビジネス文書検定、ビジネス能力検定ジョブパス			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	5人	16.7%
(中途退学の主な理由) 精神疾患、体調不良によるもの(入学以前から通院のケースが主となる)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 登校できた際の授業サポート、家族との連携によるサポート		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科 Webプロフェッショナルコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1778 単位時間	271 単位時間	単位時間 /単位	1507 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	22人	0人	2人	5人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) Web サイト制作に係るデザイン、コンテンツ、テクノロジーをバランスよく学び、Web 業界への就職を目指す。授業の8割以上を実習とし、実践的にスキルとノウハウの蓄積をおこなう。
成績評価の基準・方法
(概要) 科目毎に、その終了時に1回の評価としてA・B・C・Dの4段階とする検定取得状況・平素の授業態度・確認テスト・出席率・課題提出状況・期末試験等(年2回)の結果によって総合的に行う
卒業・進級の認定基準
(概要) 本学の教育方針であるスペシャリストの育成・豊かな人間形成を踏まえて、学生が各学科の教育課程を修め所定単位を修得したことを基準に進級・卒業認定会議にて審議し認定する
学修支援等
(概要) 検定対策の授業および技能や資質の向上を図るための実践スキルを身に付ける授業を行う

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

--

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (%)	19人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) Web デザイナー、Web エンジニア、カスタマエンジニア、社内エンジニア、事務職 など			
(就職指導内容) 就職課との連携を下に求人紹介、履歴書添削指導、面接指導、企業によるマナー講座(化粧講座、スーツ講座)、企業によるセミナー開催(基本の就活マナー)等			
(主な学修成果(資格・検定等)) Microsoft Office Specialist Excel/Word、ジョブパス3級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	4人	21%
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應による学習意欲の低下、クラス交際関係、引きこもりによる不登校		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談、1/2 面談、家族との連携でのサポート、学習面での個別対応		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報経理科 情報経理コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1785 単位時間	1250 単位時間 /単位	単位時間 /単位	535 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		37人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 会社のお金の流れを記録・管理する知識を習得し、経営情報を可視化できる知識を習得する。定型業務を自動化するスキルとして基本的な PC スキルにとどまらず業務上必須になる情報スキルも習得し、情報化社会に対応できる人材となる。
成績評価の基準・方法

(概要) 科目毎に、その終了時に1回の評価としてA・B・C・Dの4段階とする 検定取得状況・平素の授業態度・確認テスト・出席率・課題提出状況・期末試験等(年 2回)の結果によって総合的に行う。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本学の教育方針であるスペシャリストの育成・豊かな人間形成を踏まえて、 学生が各学科の教育課程を修め所定単位を修得したことを基準に進級・卒業認定会議 にて審議し認定する。
学修支援等
(概要) 学習の進捗の遅れのある学生は放課後や水曜日の午後の時間を利用して補習 を行うことによって学習意欲の維持に努めている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	14人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) トヨタカローラ姫路株、ケーエスフーズ株など地元中小企業の事務職(事務系総合職)			
(就職指導内容) 履歴書添削、面接対策など			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日商簿記2級、ファイナンシャル・プランニング技能検定3級、所得税法2級など			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	2人	8%
(中途退学の主な理由) 精神疾患、体調不良によるもの(入学以前から通院のケース が主となる)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスメイトを作りやすいクラス経営に努め、友人のサポートも得られる環境づくり の構築。個別指導などより手厚いサポートの実施。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	情報経理科 医療ビジネスコース	○	
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類	
			講義	演習
			実習	実験
				実技

2年	昼	1825 単位時間	1350	単位時間	475	単位時間	単位時間
			単位時間	/単位	単位時間	/単位	単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	41人	0人	2人	3人	5人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）医療機関の事務業務に求められる技能を座学形式で授業、医事ソフトオペレーションおよびMicrosoft社Officeソフトの活用を実習形式で授業を行い、検定試験の合格に必要な授業時間数によって年間を前期・後期・通年に分けて計画する
成績評価の基準・方法
（概要）科目毎に、その終了時に1回の評価としてA・B・C・Dの4段階とする検定取得状況・平素の授業態度・確認テスト・出席率・課題提出状況・期末試験等（年2回）の結果によって総合的に行う
卒業・進級の認定基準
（概要）本学の教育方針であるスペシャリストの育成・豊かな人間形成を踏まえて、学生が各学科の教育課程を修め所定単位を修得したことを基準に進級・卒業認定会議にて審議し認定する
学修支援等
（概要）検定対策の授業および技能や資質の向上を図るための実践スキルを身に付ける授業を行う

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26人 (100%)	0人 (%)	24人 (92.3%)	2人 (7.7%)
（主な就職、業界等） 県内の総合病院、診療所、調剤薬局、歯科医院			
（就職指導内容） 就職課との連携を下に求人紹介、履歴書添削指導、面接指導、企業によるマナー講座（化粧講座、スーツ講座）、企業によるセミナー開催（基本の就活マナー）等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 医療事務技能審査試験、医師事務作業補助者実務能力認定試験、医事オペレータ技能認定試験、電子カルテオペレーション実務能力認定試験			
（備考）（任意記載事項） 「その他」追記：精神疾患等により就職活動辞退者			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

26 人	2 人	7.7%
(中途退学の主な理由) 精神疾患、体調不良によるもの(入学以前から通院のケースが主となる)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談、家族との連携でのサポート、学習面での個別対応		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載 事項)
情報システム科 SE プログラマー CG クリエーター	200,000 円	600,000 円	約 420,000 円	その他内項目 施設整備費 維持費 補助活動費
情報システム科 IT スペシャリスト Web プロフェッショナル	200,000 円	600,000 円	約 380,000 円	同上
情報経理科 情報経理 医療ビジネス	200,000 円	600,000 円	約 300,000 円	同上
	円	円	円	
修学支援(任意記載事項)				
各種特待生制度(授業料または入学金を 50,000 円~300,000 円免除)				
Himejo 奨学金(専願受験生向けの月額 10,000 円の支給型奨学金)				
ひとり暮らし奨学金(ひとり暮らしをするものに対する月額 10,000 円の家賃補助)				
家族入学支援制度(本校の在校生や卒業生に兄弟姉妹または父母がいる者に対する入学金 100,000 円免除)				
授業料減免制度(選考により 2 年次に授業料を 100,000 円減免)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.himejo.ac.jp/		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
学校関係者評価委員会を組織し、学校関係者評価委員会を実施。評価委員について、本年度は卒業生を主体に構成。学校内部での自己評価の公表・説明を行い、それに対する意見、評価をもらい、その内容を学校内部で共有、運営に反映させることで、教育内容の拡充、学校運営の改善を推進する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社役員	2 年	卒業生

株式会社役員	2年	卒業生
株式会社役員	2年	卒業生
株式会社社員	2年	卒業生
株式会社社員	2年	卒業生
株式会社社員	2年	卒業生保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.himejo.ac.jp/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.himejo.ac.jp/
--